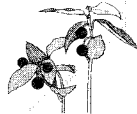


# 交通 評論



東京スカイツリーが日に日に伸びている。下町に住む友人がメールで知らせしてくれるので、完成が楽しみです。

スカイツリーを見るにつけ思い出すのが、筑波の気象研究所にあった気象観測鉄塔で仕事をしていた頃のことである。1980年に筑波に政府の研究機関が移転して研究学園都市が形成されたが、見渡す限りの田園の広がりの中で一番高いものが213階の気象観測鉄塔であった。

置いて大気粉塵の採取を行っていた。化学分析のためにはフィルターを回収する必要があるため、毎週、まわりがまる見えの鉄道の小さい箱のようなエレベーターを運転して鉄塔に登り、フィルター交換を1年間続けた。一度センサーを

つければデータが自動で回収できる物理の人たちには「化学屋さんは不便ですね」とよく冷やかされたものである。

確かには不便であったが悪いことばかりではなく、鉄塔の上から見る筑波の季節の移り変わりは興味深かった。ちょうど秋から冬になる季節は特に変化に富んでいて、収穫を終えた農地から名物の野焼きの煙が上がっており、のどかな農村の晩秋の風景であった。

ところでこの煙は、実は175階のステーションまでは上がって来ないのである。特に早朝、晴れて冷え込んでいるようなときは、煙は100階付近を横にたなびき、それより上には上がらない。煙の成分の測定値に

## スカイツリー雑感

土器屋 由紀子

ベーターを運転していると100階を超えたあたりから、急に視野が晴れわたり、それまで霞んでいた筑波山がくっきり見えたりする。

気温も5度程度上がるので、下では手放せなかった手袋を脱いで作業できるようになる。これは、放射冷却によって冷やされて地面

重いから混ざらないのである。煙突の煙が横にたなびくあたりが混ざりにくい空気の境目である。昼頃になると、地面が暖まると下の空気が暖められて軽くなり混ざり合うようになる。大局的に見ると対流圏の空気はよく混ざり合っている。

でも同じ成分であるが、このように局所的に見ると混ざり方に時間差が出る。筆者らのNPOは富士山頂で大気化学成分の観測を行っているが、これは富士山を日本の中央にそびえ、大きいタワーと見立てて、大気を調べるものである。関東平野よりもっと大きい時空間的なスケールでの大気の混ざり具合を化学的手法で調べることによって、東アジアの越境大気汚染などの詳細を調べることが目的としており、近年、世界的にも山岳を使う観測研究は注目されている。

筑波の気象観測鉄塔は本来の目的を達成して、目下取り壊し中とのことである。しかし、日本の富士山を利用した大気の研究は今後も期待されている。

(江戸川大学名誉教授・元気象大学教授)

これは大気境界層(地面付近の大気で地表の影響を受ける部分)の研究のために立てられたものである。筆者は鉄塔の一番上のステーションと地上にサンプラーを

置いて大気粉塵の採取を行っていた。化学分析のためにはフィルターを回収する必要があるため、毎週、まわりがまる見えの鉄道の小さい箱のようなエレベーターを運転して鉄塔に登り、フィルター交換を1年間続けた。一度センサーを

つければデータが自動で回収できる物理の人たちには「化学屋さんは不便ですね」とよく冷やかされたものである。

スカイツリーを見るにつけ思い出すのが、筑波の気象研究所にあった気象観測鉄塔で仕事をしていた頃のことである。1980年に筑波に政府の研究機関が移転して研究学園都市が形成されたが、見渡す限りの田園の広がりの中で一番高いものが213階の気象観測鉄塔であった。

これは大気境界層(地面付近の大気で地表の影響を受ける部分)の研究のために立てられたものである。筆者は鉄塔の一番上のステーションと地上にサンプラーを

置いて大気粉塵の採取を行っていた。化学分析のためにはフィルターを回収する必要があるため、毎週、まわりがまる見えの鉄道の小さい箱のようなエレベーターを運転して鉄塔に登り、フィルター交換を1年間続けた。一度センサーを

つければデータが自動で回収できる物理の人たちには「化学屋さんは不便ですね」とよく冷やかされたものである。

スカイツリーを見るにつけ思い出すのが、筑波の気象研究所にあった気象観測鉄塔で仕事をしていた頃のことである。1980年に筑波に政府の研究機関が移転して研究学園都市が形成されたが、見渡す限りの田園の広がりの中で一番高いものが213階の気象観測鉄塔であった。